



地域の明日をつくるひと

鳥取県の南部町で、里山の魅力を広く発信し、移住定住の支援等を行っている「なんぶ里山デザイン機構」の板持事務局長と、西重移住定住コーディネーターにお話を伺いました。

—「なんぶ里山デザイン機構」の移住定住の支援の特徴はどのような点ですか。

板持事務局長（以下、**板持**）…ワンストップで、スピーディーに支援できる場所です。行政だと住宅の担当、仕事の担当と複数の部署を回ったり、承認などの手続きで時間もかかりますが、私たちは移住定住コーディネーターが継続して支援しますし、内部の情報共有や調整も早いので、スピーディーに対応できます。
西重コーディネーター（以下、**西重**）…町が古民家を改修した、お試し



お試し居住施設「えん処米や」

（写真提供：なんぶ里山デザイン機構）

居住施設「えん処米や」の管理を委託しているので、移住検討の初期から支援をスタートできます。お会いする機会が多いぶん、気軽に相談いただける関係を作りやすいと思います。



西重コーディネーター 板持事務局長

—空き家を活用し移住者の住まいを確保されているそうですね。

板持…空き家を十年間借上げ、リフォームして移住者に賃貸しています。リフォーム費用や借上げ中の固定資産税は私たちが負担します。この仕組みを「空き家一括借上げ制度」と呼んでいます。当初は制度の利用が増えず、移住の相談はあるのに提供する空き家がないという課題を抱えていました。県から紹介されたプロボノ※活用事業を利用し、東京や県内のプロボノワーカーとともに検討するなかで、空き家所有者に情報が届いてい

豊かな里山をデザインし
豊かなまちづくりに貢献する
特定非営利活動法人
なんぶ里山デザイン機構
（鳥取県西伯郡南部町）

すが。
西重…移住希望者には、南部町の良い面だけでなく、自治会や地区のルールなど面倒に見える面も説明し、それらを守れば気持ちよく過ごせることを、繰り返し伝えていきます。また、自治会の区長さんと面会してもらい、地区の行事やルールを理解・納得してもらってから受け入れています。移住者と地元住民がお互いを受け入れなければ移住はうまくいきません。

—今後について。

西重…新型「コロナ」で移住フェアが中止になるなど、私たちから働きかける機会がなくなってしまうかもしれません。オンライン上でもそうした機会を作ること、また、対面と同じように信頼関係を築けるようにすることが喫緊の課題です。

板持…法人の運営に関しては、町の補助金等に頼らない自立した運営を目指しています。自力で事業を継続できるように、空き家の有効活用と移住定住の支援をすすめていきたいと考えています。



「あなたの家、大切にしてくれる人がいます」
空き家所有者へ向けたサイトも充実

—全国的には、移住者が地域に馴染めないという課題もあるように

ただ、田舎の家は広いので、最近増えている独身や夫婦二人の移住希望者にちょうどよい家はなかなかありません。これについては、町に整備を求めています。

（取材・鳥取財務事務所 総務課 濱岡）

※プロボノ…「公共善のために」を意味するラテン語に由来する言葉で、「社会的・公共的な目的のために、仕事等で培った経験やスキルを活かしたボランティア活動」のこと。